

はじめに



令和2年（2020年）は、熊本地震からの創造的復興が着実に進展する中、新型コロナウイルス感染症の拡大、さらには、令和2年7月豪雨による甚大な被害が発生し、まさにトリプルパンチに見舞われ、県政史上類を見ない厳しい年となりました。今後も、この3つの困難に対して、「誰一人取り残さないくまもとづくり」の理念のもとに将来を見据えた持続可能な「新しいくまもと」を創造して参ります。

さて、今、世界の環境に目を向けたとき、気候変動による干ばつや異常な降雨に伴う災害等、これまでに経験したことのない気象現象が多発しています。本県は、令和元年（2019年）12月に将来の目指すべき姿として「2050年までに熊本県内CO₂排出実質ゼロ」を宣言しました。「環境立県」を目指す本県として国に先駆けて声をあげ、CO₂排出ゼロに向けた機運を盛り上げることで、国を後押しする必要があると考えたからです。この目標を達成し、持続可能な未来を実現するために、行政、事業者、県民等が一体となり、協働しながら取り組んでいく必要があります。

私たちが暮らす熊本県は、豊かな地下水や雄大な阿蘇の草原、天草や有明、八代の資源豊かな海など多様な自然環境に恵まれています。一方、私たちは「公害の原点」と言われる水俣病を通して、環境破壊の恐ろしさとその復元の困難さを身にしみて実感しています。水俣病の過ちを二度と繰り返すことなく、かけがえのない自然を県民共有の宝として次の世代へ引き継いでいくことは、今を生きる私たちの重要な責務です。

この白書では、本県の環境の現状、課題及び取組みの内容をまとめています。県民の皆様一人ひとりが、この白書を通して、本県の環境の現状や対策について関心と認識を深めていただき、環境立県くまもとの実現に向けた確かな一歩を是非踏み出していただくようお願いいたします。

令和3年（2021年）3月

熊本県知事 蒲島 郁夫